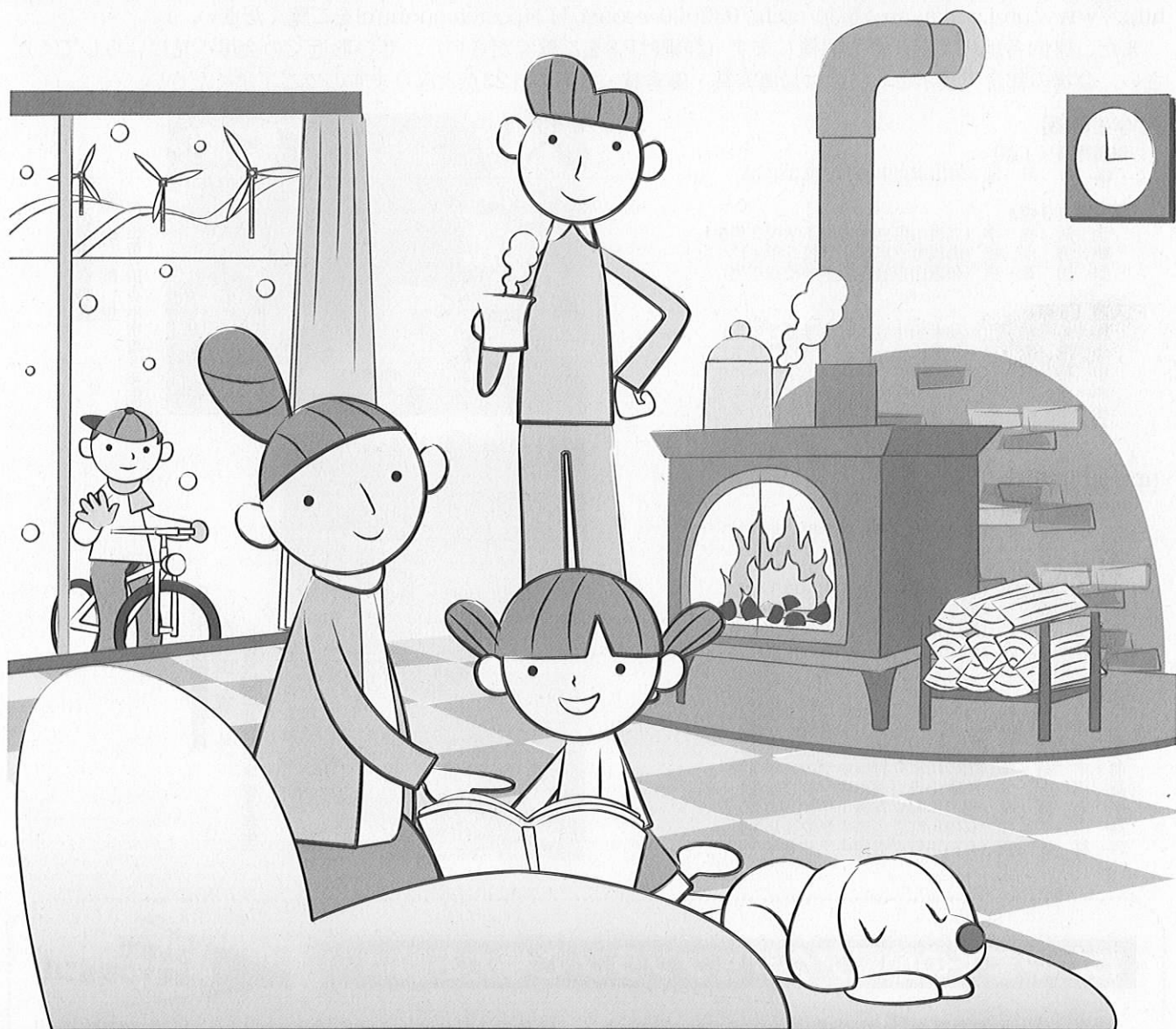


わおん通信

2012
冬号
(第7号)



CONTENTS

2面 ■ ポスターコンクール入賞者決定

3面 ■ 和歌山の森をなんとかしたい

4面 ■ 全国各地のとりくみに学ぶ

ちちぶバイオマス元気村発電所～埼玉県

5面 ■ 和歌山県内の太陽光発電システム

6面 ■ 各協議会や推進員のとりくみ

7面 ■ 推進員さんびよっこり訪問記 ③

8面 ■ INFORMATION



平成24年度「ストップ地球温暖化」ポスターコンクール入賞者決定

このポスターコンクールは、地球温暖化に対する理解を深め、『ストップ地球温暖化』への意識の高揚と定着、実践行動の促進を図るため、平成17年度から県内の小・中学生を対象に実施しています。

本年度は応募数438点(小学生145点・中学生293点)を対象に審査会を開催し、最優秀賞(小学生1点・中学生1点)、優秀賞(小学生3点・中学生4点)、入選(小学生6点・中学生8点)、佳作(小学生13点・中学生18点)、計54点の入賞作品を選定、各賞の入賞者は以下の通りとなりました。(紙面の都合上、佳作については掲載しておりません、<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/econet/H24posterconc.html>をご覧ください。)

また、県内各地にて展示会を開催します(詳細はP.8をご覧ください)、ぜひお近くの会場へ見に行ってください。会場の都合で展示されるのは最優秀賞・優秀賞・入選の計23点となりますのでご了承ください。

【小学生の部】

○最優秀賞(1点)

脇村 叡世 (岩出市立中央小学校3年生)

○優秀賞(3点)

土居 稔 季 (九度山町立九度山小学校2年生)
 駒方 瑞穂 (湯浅町立湯浅小学校5年生)
 堅田 菜央 (和歌山市立西脇小学校6年生)

○入選(6点)

松本 結也 (和歌山市立本町小学校2年生)
 山内 歌視 (和歌山市立貴志小学校3年生)
 中屋 新太郎 (有田川町立鳥屋城小学校4年生)
 西中 芳帆 (かつらぎ町立洪田小学校5年生)
 松下 彰 (有田川町立鳥屋城小学校6年生)
 松本 梓紗 (和歌山市立本町小学校6年生)



小学生の部最優秀賞
 脇村 叡世
 (岩出市立中央小学校3年生)

【中学生の部】

○最優秀賞(1点)

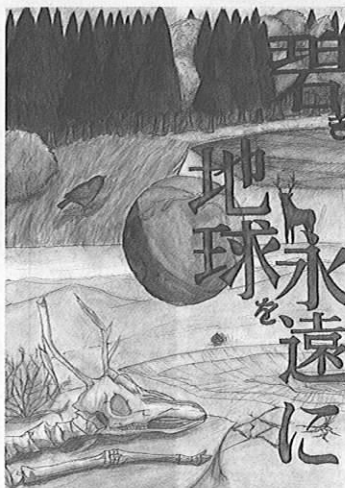
西山 雄斗 (和歌山市立東和中学校2年生)

○優秀賞(4点)

井上 奈津実 (かつらぎ町立笠田中学校1年生)
 馬場 彩月 (橋本市立橋本中学校1年生)
 土田 悠介 (海南市立下津第二中学校3年生)
 出井 諒大 (田辺市立明洋中学校3年生)

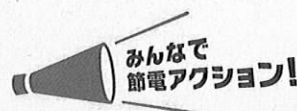
○入選(8点)

田中 吉乃 (日高川町立大成中学校1年生)
 平林 友梨香 (日高川町立丹生中学校1年生)
 重田 望視 (和歌山市立明和中学校1年生)
 前中 菜々 (紀の川市立打田中学校2年生)
 岡田 有里 (和歌山市立明和中学校2年生)
 尾上 慶周 (有田川町立吉備中学校3年生)
 島田 さくら (有田川町立吉備中学校3年生)
 西村 紅音 (有田川町立吉備中学校3年生)



中学生の部最優秀賞
 西山 雄斗
 (和歌山市立東和中学校2年生)

わかやま冬の節電アクションプラン ご協力お願い



今冬の関西電力株式会社管内における電力需給の見通しは、安定供給に最低限必要とされる3%以上の予備率が確保できる見通しです。

しかしながら、この見通しは、定着した節電として平成22年度冬比5.6%の節電を見込んでいます。

このため、関西広域連合では、今冬も継続して皆様に節電に取り組んでいただけるよう国や関西電力株式会社と連携して節電を呼びかけることとしました。

和歌山県では、こうしたことをふまえ、今冬の節電対策をとりまとめました。

当該対策が対象とする期間は、平成24年12月3日(月)から平成25年3月29日(金)の平日(12月31

日及び1月2日~4日を除く)とし、対策の実施期間中は、平成22年度冬比で6%を目安とし、定着した節電の着実な実行を目指すこととします。

なお、産業活動や病院、鉄道などのライフライン機能、都市機能等の維持に支障を生じない範囲での協力をお願いします。

また、高齢者や乳幼児、体調が悪い方のおられる家庭に、負担をかけてまで節電をお願いするものではありません。皆様のご協力をお願いします。

詳しくは県庁環境生活総務課のサイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/s etsuden/>をご覧ください。

和歌山の森をなんとかしたい

「市民がすすめる木質バイオマス利用事業」への期待と協働



10月14日、古座川町平井で「薪づくり交流会」を開催し、コンソーシアムのメンバーや地元の方々21人が参加しました。

この交流会に先立ち元森林作業員5名にお願いし、薪資源調達作業を行い約14.16m³を回収。薪づくりでは、指導員の「安全指導」でチェーンソーや斧、薪割り機を各々が使い、貴重な体験をするとともに、薪づくりにどのくらいの労力が必要かなど「データ取り」も行いました。

同月17日には近畿大学生物理工学部教授の澤井徹氏を招き、「木質バイオマス固体燃料の可能性」をテーマに、学習会とミニワークショップを実施。

また、11月には、かつらぎ町、高野町、九度山町、田辺市龍神村の4箇所で薪ストーブの「展示会」を開催。かつらぎ町と高野町では町長さんが「町の森林資源を町民が使うシステムを構築しよう。薪ストーブをみんなで使おう」と、熱心に町民にアピールして下さる場面も。紀北地域での展示会は、「県森林組合連合会」、「かつらぎ町森林組合」と「森林組合こうや」の協力で開催することができ、また、いずれの展示会でも、地元で薪づくりと販売を手がけている人、薪ストーブを普及している業者や工務店の方、そして薪ストーブを使っていたり、これから使いたいという人た



▲かつらぎ展示会

▲高野展示会



▶龍神展示会

ちなど、多くの関係者と繋がることができました。龍神村の展示会では、紀南地域温暖化対策協議会のメンバーが来場者へのアンケートを行いました。

引き続き12月には、橋本市で薪をつくり販売している方を中心に学習会とワークショップを行い、地域の「薪を使う人の輪」を組織する作業や、田辺市内の薪ストーブ施設等を実際に見て考える「見学会」を実施しました。また、1月には田辺市上秋津と橋本市で「薪づくり交流会」を行い、薪ユーザーと薪生産者を繋ぎ、地域の活性化を模索するとりくみを展開する予定です。

ウミホタル

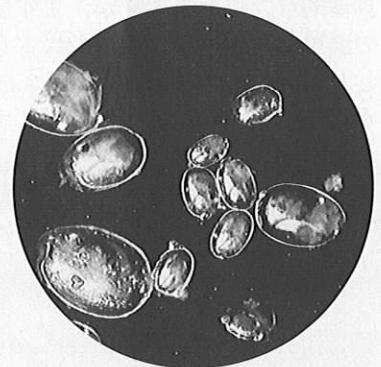
青く光る波打ちぎわ

今年で2回目となるウミホタル観察会。10月12日と13日、和歌山市の片男波海水浴場で行い、2日間で、12組37名の親子が参加しました。

まずは仕掛け作りから。20個ほどの穴を開けたフタつきのガラス瓶に紐とエサをセットしていきます。手順通りに作ったら、いよいよ海へ。しかけにつなげた紐を持って海底に設置してセット完了です。

ウミホタルがかかるまでの間、その生態について紙芝居で学習します。ウミホタルは、日本太平洋沿岸に広く生息している体長2~3ミリほどの生き物。米粒のような形をした2枚の殻をもつ貝虫（かいむし=カイミジンコ）の仲間で、おもに魚の死骸などを食べています。日中は砂の中に潜っており、日没後の満潮時にあらわれて活動します。また、光を嫌う習性があり、海辺の開発で「眠らない街」が出現すると消えてしまいます。

いよいよ、しかけをゆっくりと引き上げていきます。今回は海がやや荒れていたこともあり、残念ながら、あまり仕掛けにかかりませんでした。しかし、浜辺には無数の光が。子どもたちは、ライトブルーの光を1つずつ、指でつまんでバケツに入れていきます。



写真提供：南村和夫さん

最後は、ウミホタルを一斉に浜に返し、ひとときの「青い天の川」を堪能しました。「わぁ」という歓声とともに、その不思議な光に子どもも大人も魅了されていました。小学2年生の保護者は、「こんな綺麗な光景を身近に見ることができるとは、知らなかった。きれいな海にしか住めないという、この小さな生き物を残せるようにしていきたいです」と感想を述べていました。

再生可能エネルギーにかける町おこしの願い 埼玉県秩父市

【ちちぶバイオマス元気村発電所】

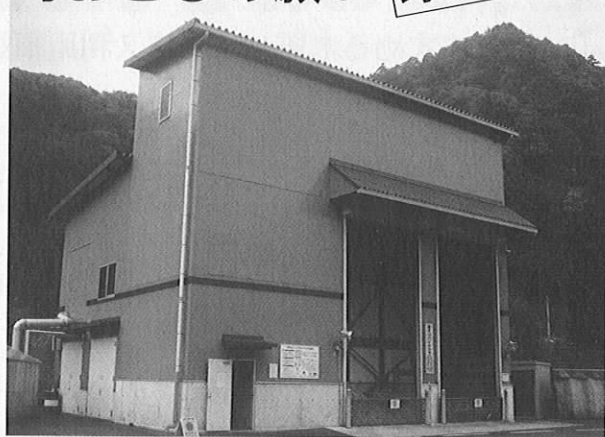
地球温暖化対策、全国の先進事例に学ぶシリーズ。今回は埼玉県秩父市の「吉田元気村」に設置された「ちちぶバイオマス元気村発電所」を紹介します。

バイオマスの直訳は「生物資源の量」ですが、産業の観点からは主として生物起源のエネルギー資源を指し、木材や農産物の残りかす、生ゴミ、家畜糞尿などが該当します。これらを燃焼させるなどして利用すれば当然CO₂が発生しますが、これは巡りめぐって再び生物を創る材料に使われるため、差し引きでは大気中のCO₂を増やしません。これを「カーボンニュートラル」

(炭素中立)といい、同じ燃焼でも地下に眠っていた炭素を燃やして大気中のCO₂を純増させる化石燃料とは区別して、再生可能エネルギーのひとつに数えています。

吉田元気村は秩父の閑静な山村に開かれたアウトドア体験エリアで、体育館やクラブハウス、キャンプ場、コテージのほか、ピザ窯や日帰り温泉などが整備されています。その一角で2007年4月に稼働したバイオマス発電所は、毎時125kgの間伐材チップをガス化して発電、体育館の屋根に設置した30kWの太陽光発電とあわせて元気村全体の電力需要をまかなうほか、発電所に併設した使用済み天ぷら油からバイオディーゼル燃料を精製する精製装置にも電力を供給。さらに総発電量の半分を超える余剰電力を東京電力に売っています。また、発電に伴い発生する熱エネルギーを温泉や足湯などでできるだけ無駄なく利用するコージェネレーション(熱電併給)システムとすることで、総合エネルギー効率を73%まで高めています。

具体的なプロセスですが、まず燃料チップを廃熱利用の温風で含水率1%まで乾燥させたのち、酸素を遮断し1000度以上に加熱したガス化炉で蒸し焼きにして水素と炭素からなる可燃性ガスを生産、これをガス



ちちぶバイオマス元気村発電所建屋

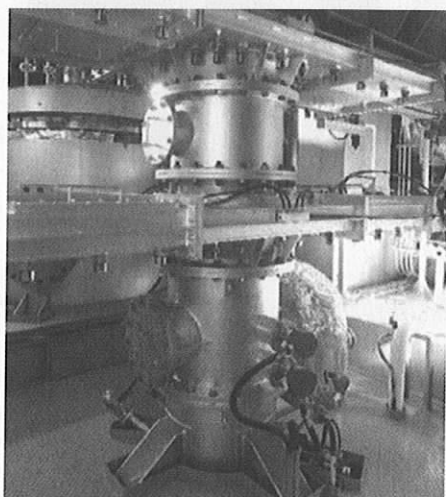
エンジンで燃やして得た動力でタービンを回して発電、エンジンから出る高温の排ガスでお湯を沸かして温泉などに供給します。ガス化した残りかすが燃料重量比で約4%の木炭灰となって出ますが、これは土壤改良資材などとして販売。ただ少量出るタールには適当な処分方法がなく、この解決が今後の課題です。

発電所は、吉田元気村の営業時間にあわせて1日12時間稼働。始業後半時間で発電が可能となり、発電停止後15分で静止します。これを5年あまり継続し、今年8月には累計発電量が100万kW時に達しました。

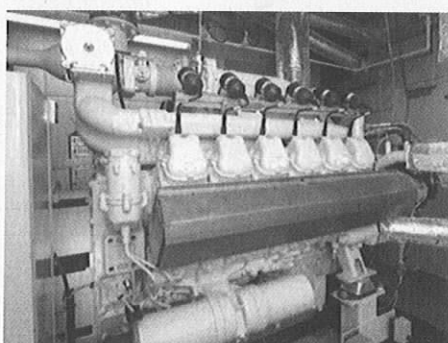
秩父市はこの発電事業の目的を、①秩父市の87%を占める森林の再生、②地球温暖化対策、③資源循環型社会の構築、④林業をはじめとする産業の振興、⑤新規産業と雇用創出による地域活性化、⑥環境学習の6点に整理しています。このうち特に⑤では、間伐や搬出で4人、チップ加工で1人、発電所の運転で3人、計8人の新規雇用が生まれましたが、賃金の一部は緊急雇用対策などの公的資金でまかなわれており、完全に経済的に自立して経営するにも、まだ乗り越えるべき課題がありそうでした。

とはいえ、この発電所の総合エネルギー効率73%は、原子力発電の33%はもちろん、最新のコンバインドサイ

クル火力発電の50~60%と比べても極めて高く、地産地消型コージェネレーションシステムの優位性が実証されていますし、森林の再生と農山村地域の活性化に貢献する点でも、大きな希望であることは疑いありません。木質バイオマスは「木の国」和歌山でも有望視される再生可能エネルギーだけに、同発電所から学べることはたくさんあると感じました。



ガス化炉



ガスエンジン



県内に約52.6^{メガワット}の太陽光発電システム

52,600kW



今回、各自治体への電話調査と、入手できる資料を基に県内の太陽光発電設置の状況を調べてみました。

和歌山県内の太陽光発電所（メガソーラー）

今年7月から「再生可能エネルギー固定価格買取制度」が実施され、県内にもメガソーラー発電所が次々に建設・進出が決定しています。

9月20日、出力約2MWの「コスモパーク加太太陽光発電所」が稼働し、送電が開始されました。この発電所は(株)ウエストホールディングスがコスモパーク加太の土地約2万8千㎡を約20年借り受け、事業化したものです。コスモパーク加太内の法面を活用し、1枚240W出力の太陽光パネルが8,316枚設置されています。同社メガソーラー事業部によれば、「年間発電量は約227.5万kWhを予定しており、約630世帯の電力を賄うことが可能」、「CO₂削減量は年間約800トン」ということです。

また、ノーリツ鋼機(株)「ソーラーパワーステーション和歌山」(出力約2MW)、(株)ガスアンドパワー「広川明神山太陽光発電所」(出力約0.8MW)、三井物産(株)「南海いずも台太陽光発電所(仮称)」(出力約1.5MW)の事業化が進んでおり、その他、和歌山県、橋本市、印南町が所有する土地にも太陽光発電所が進出決定するなど、和歌山

| 市町村名 | 件数 | 出力 |
|-------|-------|--------|
| 和歌山市 | 2,121 | 7,477 |
| 海南市 | 270 | 979 |
| 橋本市 | 567 | 1,814 |
| 有田市 | 136 | 496 |
| 御坊市 | 138 | 525 |
| 田辺市 | 473 | 1,627 |
| 新宮市 | 149 | 538 |
| 紀の川市 | 603 | 2,089 |
| 岩出市 | 553 | 1,838 |
| 紀美野町 | 39 | 147 |
| かつらぎ町 | 113 | 411 |
| 九度山町 | 15 | 55 |
| 高野町 | 2 | 6 |
| 湯浅町 | 61 | 229 |
| 広川町 | 65 | 273 |
| 有田川町 | 144 | 541 |
| 美浜町 | 69 | 246 |
| 日高町 | 82 | 295 |
| 由良町 | 16 | 57 |
| 印南町 | 62 | 239 |
| みなべ町 | 103 | 368 |
| 日高川町 | 93 | 351 |
| 白浜町 | 155 | 542 |
| 上富田町 | 128 | 417 |
| すさみ町 | 17 | 61 |
| 那智勝浦町 | 73 | 266 |
| 太地町 | 11 | 36 |
| 古座川町 | 13 | 56 |
| 北山村 | 0 | 0 |
| 串本町 | 81 | 290 |
| 計 | 6,352 | 22,269 |

近畿経済産業局HPより
(10kW未満の設備 - 2010年12月)



県内に大規模な太陽光発電所の計画が進んでいます。

住宅用太陽光発電～出力約4万kW

近畿経済産業局のホームページによれば、2010年12月現在の「住宅用太陽光発電設置(10kW未満)」は6,352件、出力2万2,269kW(表)となっています。その後の状況をJ-PECが公表している「設備補助金交付決定件数」を元に概算してみると、2012年9月末までに3,902件、出力約1万7,472kW増加しており、合計で10,254件、出力約3万9,740kWが現在の和歌山県内の住宅用太陽光発電設置の状況だといえるでしょう。これらによる年間発電量は、およそ4,000万kWhと推定されます。

県内130の公共施設に約2,176kW、 34の民間企業・事業所等に約1,872kW

公共施設への太陽光発電システム設置について、今回、県及び各自治体などへ電話調査を実施したところ、和歌山市の14施設(出力313.3kW)をはじめ、国・県・市町村の施設(学校等も含む)の130施設に約2,176kWの太陽光発電システムが導入されています。また、民間企業や事業所約34施設に1,872kWが設置されています。

今回の調査等で、県内には約52,608kWの太陽光発電システムが設置ないしは設置決定されていることが判明しました。これらの多くが県民による住宅用太陽光発電設置で、今後も普及拡大に全力を尽くすべきですが、さらに太陽光発電をすすめるためには、固定価格買取制度だけでなく中規模・大規模発電への政策的支援が必要となるでしょう。

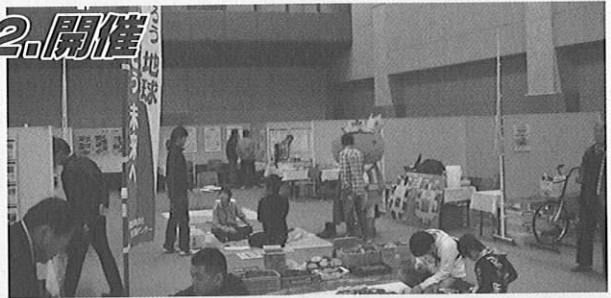
第2回 きのかわ環境フェア2012.開催

11月25日(日) 県立橋本体育館

「切り拓こう！子どもの未来」を活動目標に掲げ、「源流から河口までを持続可能な社会に」と銘打った「きのかわ環境フェア2012」（第1回は紀の川市で2011年開催）が、11月25日、県立橋本体育館の武道室を中心に開かれ、訪れた大勢の家族連れらが、地球環境と人間生活と自然環境（生態系）の、切っても切れない大切な関係を学んだ。

環境フェアは、コーラスグループ「音たまご」の子供たちによる合唱で開幕。木下善之市長（協議会顧問）が「地球温暖化を防ぐには、自然エネルギーの利用や有機農業の促進、冷暖房の節電・工夫などが大切。みんなで力を合わせて、地球環境をまもりましょう」と挨拶。さらに紀見小学校のオカリナ・グループの子供たちによる演奏と参加者全員による「ふるさと」の合唱で、和やかな雰囲気です。

会場には▽電力の地域創造（小水力発電、太陽光発電、バイオマス発電）▽森林資源の有効活用（薪ストーブや炭火）▽自然農業の拡大と生態系保全（棚田・里山保全）▽体験型環境教育（ピオトープツアー）をアピール。主に紀ノ川筋の24団体（事業所）が参加、21ブースで環境関連の物品を展示して、活動紹介を行った。



同日に開催された橋本市教育委員会主催の「すこやか橋本まなびの日」の1出展団体として開催したこともあって、若干の制約があり、参加団体には、家族連れの参加者と「体験型」で共に楽しめる展示をして頂いた。環境や自然のことを、穏やかな雰囲気の中でゆっくり学ぶことができたと思う。

きのかわ環境フェア2012実行委員長

(伊都橋本地球温暖化対策協議会・代表) 佐藤 俊

第2回 紀の川市こども環境学習発表会

未来のこの街はこどもたちの手で

11月17日の土曜日、「第2回 紀の川市こども環境学習発表会」を開催しました。

昨年、「きのかわ環境フェア2011」の開催に合わせ、第1回を開催し、こどもたちが学校で環境について学んだことを発表していただき、また他校ではどのようなことを学んでいるのかを知る事によって、環境に対する意識の向上を目指しました。

第2回の今回は、発表の部が4校、展示の部が8校9組、合わせて13組の出展がありました。

内容は、身近なゴミに関する事、水に関する事、森林体験を通して学んだ事、地域の川に飛び交うホタル、生徒会が主催して行ったクリーン作戦、地球温暖化、フードマイレージ、ナショナルトラストなどなど様々な内容でした。



一口に環境と言っても、地域によって学校によって色々なことを学んでいることが分かります。私たち協議会も、パネル



展示を通して地球温暖化に関することをPRしました。

この街の未来はこどもたちのものです、その気持ちを持って行動する私たちも学ぶものが多かったです。こどもたちには、入口は色々ですが、環境への関心を持ち続けて欲しいです。

最後に、開催にあたりご協力いただきました関係各位に感謝申し上げます。

紀の川市地球温暖化対策協議会 榎本喜之



推進員さん「ひまわり」訪問記^③

田辺市

柳谷 篤朗さん

田辺市秋津町の柳谷篤朗さんは、推進員になってから脱サラして製炭の道に入った異色の経歴の持ち主です。そこに至った経過をお聞きしました。

柳谷さんが受講したのは04年～05年に開催された第一期の養成研修。荒れる里山や汚れる海を身近に見て心配していたところ県の広報でこの研修を知り、自分にできることを見つけようと参加しました。

「他の人と知識や活動のレベルが違うし、自分は引っ込み思案やし、これはムリやな」と思ったとか。

しかし、同じ田辺から参加した他の推進員から、「みんなで盛り上げていこうよ」と繰り返し熱心な誘いを受け、地域での活動に参加することになります。そしてみんなで始めたのが、未利用の間伐材を炭にして活用する実験的な取り組みでした。

2年続いたこの取り組みで、柳谷さんは製炭のおもしろさを知ります。「技術はチンプンカンプンやったけどね、窯から炭が出てくるときの色がなんかホノボノとしてホッとしたんよ」「こうして木を使うたら山も蘇(よみがえ)るって思ったし」。地元特産の紀州備長炭についてはもちろん知っていましたが、製炭の現場に接したのはこれが初めてでした。「自分にもできるかもしれない」



柳谷さんは、それまで務めていた梅干会社を辞め、紀州備長炭公園(田辺市秋津川)内の伝習館に入門。1年半にわたりベテラン技術者の指導を受けながら同所に設置された炭窯を使用しての研修に励

むかたわら、自宅から5キロほど離れた山中に自前の炭窯を建設して、生業としての製炭を始めます。収入面の不安はありましたが、大学入学を控えた子どもにも「学

費は2年分だけ面倒見るが後は自前で」と言い含めての出発でした。

現在の製炭サイクルは3週間。1週間かけて山から集めたウバメガシなどの原木を1週間弱で炭にしますが、焼くまでの準備や焼いた後の出荷までの作業が1週間あまりかかるそうです。出荷先はJAや知り合いの焼き鳥屋さんなど。

製炭という仕事自体が地球温暖化対策とも言えるわけですが、それを意識されることはありますか?「温暖化対策も考えるけど、それより木のことを考えるかなあ」「木を伐るたび、良い炭にならしてよって祈るような気持ちになる」「木でも命とるんやからね、朽ち果てさせんと、しっかり役に立てて成仏させたいって思うよ」「だからつい、ええ炭にならん細い枝まで勿体なくて、全部取ってきて…」

これからの抱負は?「まだよちよち歩きですから、何回かに1回くらいしかうまく焼けてない」「だから、とにかくこの道を究めるのが一番、製炭の精度を高めたいね」。

紀南地域協議会を中心とするバイオマスエネルギー事業で地域の薪ストーブ需要向けに薪を販売する場をつくる計画があり、協議会の一員として柳谷さんはそこに薪を納入する役割を担うことになっています。「炭にならん雑木とか放置してるからね、乾かすところさえ確保できたら有効利用できるよ」「それがちゃんと収入になれば、他の炭焼きさんも協力してくれるやろうし、そうなればもっといい森になっていくやろねえ」

いま取り組んでいる製炭が生計を支えるだけでなく、里山の生態系保全にも、地域の活性化にも、そして地球温暖化対策にも繋がってゆく。柳谷さんはいま、そんな未来をめざして技術に磨きをかける毎日です。



なるほど ガワード STOP温暖化・焦点の言葉^③

*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

【COP18について】

COPは国連気候変動枠組条約を批准した国々が集まる国際会議の略称で、その第18回目(=COP18)が中東の産油国カタールのドーハで開かれました。

今回の主なテーマは、①今年末で最初の期限が切れる京都議定書の延長、②前回COP17で2015年に決着させることで合意した全加盟国参加の新たな温暖化ガス削

減の枠組作りへの作業計画、さらに③先進国の削減目標引き上げや、④途上国への資金援助増額などでした。

このうち、京都議定書については2020年までに先進国が1990年比18%を削減する目標で来年1月1日から切れ目なく8年延長することで決着しましたが、残念ながらこの先進国には削減目標を拒否した日本や京都議定書を脱退した米国は含まれません。また新たな枠組づくりへの作業計画でも会議日程等で合意しましたが具体的な内容は乏しく、その他の課題は曖昧なまま次回に持ち越されました。

異常気象の頻発など、地球温暖化はすでに目の危機となっています。交渉を急がねばなりません、経済危機と狭くて古い国益観がその足を引っ張っています。



「ストップ地球温暖化」ポスター コンクール入賞作品の展示会場

■ 有田川町地域交流センターALEC (有田郡有田川町大字下津野704)

期 間 2013/1/8 (火) 13:00 ~ 1/17 (木) 16:00
閉館日 1/15 (火)

■ 和歌山県立橋本体育館 (橋本市北馬場455)

期 間 2013/1/18 (金) 13:00 ~ 1/28 (月) 16:00
閉館日 1/22 (火)

■ 岩出市立岩出図書館 (岩出市根来1472-1)

期 間 2013/1/29 (火) 10:00 ~ 2/6 (水) 19:00
閉館日 1/31 (木)、2/1 (金)

■ オークワパームシティ和歌山店 (和歌山市中野31-1)

期 間 2013/2/7 (木) 11:00 ~ 2/14 (木) 16:00

電気自動車・電気自動車用充電器導入 補助金の公募について (第2次募集)

県では、公益事業者を対象に車両本体の購入補助、法人又は個人事業者を対象に一般開放型の充電器の設置補助の希望を募っています。

申し込み締め切りは平成25年2月28日(木)まで

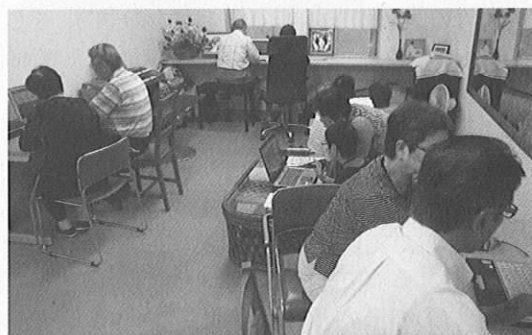
詳しくは県庁環境生活総務課のサイト
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/EV/subsidy.html>
をご覧ください。

うちエコ診断

かしこくたのしく省エネができます あなたもぜひチャレンジしてみてください。

「具体的に、何をすればいいのかがわかったので、さっそう今日からはじめようと思います」。診断を終え、とても嬉しそうにお話いただいたのは、NPO WACわかやま理事長の中村富子さん。今回、7名のみなさんに受診いただきました。

事前アンケートをもとに、5名のうちエコ診断員が具体的な住まいの様子を聞いていきます。専用ソフトに入力が終わると、「あなたのエコ順位」が出てきます。「それなりにエコな暮らしをしているつもりなのに・・・」、意外な結果を前に、みなさん一様に驚かれます。

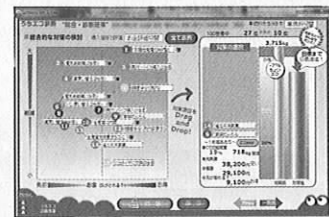


さあ、いよいよ診断です。CO₂の削減目標を設定すると、「家庭のどこからCO₂が多くてでてるのか」が表示されます。ここでは、自動車、暖房、給湯などが上位を占めることが多く、これをもとに、気になるところを細かくチェックしていきます。

次に、具体的な対策方法を診断員と一緒に考えていきます。たとえば、給湯では、給湯器そのものの効率の問題なのですが、シャワーの「一人1分短縮」や「節水型のシャワーヘッドに交換」など、すぐに始められる提案も出てきます。また、「機器の買い替え」や省エネ機器の導入提案では、それぞれの家庭の状況に合ったものを一緒に考えていきます。容量の小さい冷蔵庫でもたくさん電気を消費するものがあることや、隙間を十分に確保して設置することで効率良く使用出来る事などを説明し提案します。

受診された、同会の西本さんは「ちょっとした心がけで、エコになるんですね～」と喜んでいただきました。

意外なところにエコな暮らしの改善ポイントが見つかるうちエコ診断。あなたもぜひチャレンジしてみてください。



【発行】

和歌山県環境生活総務課

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL: 073-441-2690 FAX: 073-433-3590
mail: e0317001@pref.wakayama.lg.jp

【編集・お問合わせ】

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL: 073-499-4734 FAX: 073-499-4735
mail: wenet@vaw.ne.jp



この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。